

denudatum があげられているが、このうち少くとも私たちの調査からみると、*Brotherella henonii* と *Leucobryum bowringii* は、対象を樹幹から岩上までひろげた場合には、*Bazzania albicans* と *Bazzania pompeana* の群落に共通した群団ないしはより上級単位の標徴種とみなすのがよいであろう。このような見方からすれば、*Bazzania pompeana* 群落は *Bazzanietum albicanis* を含む *Bazzanion albicanis* (岩月 l.c.) に含まれるひとつの群集、すなわち *Bazzanietum pompeanae* として、*Bazzania pompeana* と *Bazzania japonica* がその群集標徴種と考えられる。このような岩上と樹上との関係についての群落学的な問題は、蘚苔地衣類のみならずシダ類および種子植物についても検討すべきものが多いが、これは他日あらためて報告することにしたい。

Summary

The *Bazzania pompeana* community on quartzite outcrops at low altitudes was studied in Kochi Prefecture, Shikoku, and the results obtained are presented in Tab. 1. This community on rocks covered with humus in shady places should be regarded as a new association, the *Bazzanietum pompeanae*, characterized by *Bazzania pompeana* and *Bazzania japonica*. It is interesting that the present association is similar to the *Bazzanietum albicanis* (Iwatsuki 1960) on lower portions of trunks. These two associations can be included in one and the same alliance, i.e., the *Bazzanion albicanis* (Iwatsuki l.c.)

引用文献

- Hattori, S. and M. Mizutani: A revision of the Japanese species of the family Lepidoziaceae. J. Hattori Bot. Lab. **19**: 76-118 (1958). 井上 浩: 日本産苔類ノート (3). 植研 **37**: 101-105 (1962). Iwatsuki, Z.: The epiphytic communities of Japan. J. Hattori Bot. Lab. **22**: 160-350 (1960). 山中二男・吉村庸: 珪岩上のハナゴケ群落について (珪岩上の植生 1). 植研 **36**: 118-124 (1961). 吉村 庸: 珪岩上のハナゴケ群落. 高知学芸高校研報 **4**: 61-66 (1963).

□ 正宗敬敬・里見信生: 小豆島の植物 pp. 54. pls. 15. 北陸の植物の会 (金沢) (1963) 著者達が学生実習を効果的に実施してまとめたもので 152 科 504 属 856 種の高等植物のリストに地質、気候の分担者による記事を添え、その上植物界をのべて、小豆島区系といふ小区系を独立させている。キビノヒトリシズカの発見は面白い。巻類のチョウジガマズミ、ヤマトレンギョウのカラー写真は美しい。イワギリソウを乾耐性植物としたのは今迄見落されていたことであった。

(前川文夫)